

参加賞の元となった  
ローリングボールペン



**RT** 両丹日日新聞  
Ryoutan Nichinichi Shinbun

京都府福知山市の日刊紙「両丹日日新聞」の公式サイト

ホーム ニュース コロナ時代の「あたらしいツーリズム」 福知山で官民連携の非接触スタンプラリー

2020年12月08日 のニュース

## コロナ時代の「あたらしいツーリズム」 福知山で官民連携の非接触スタンプラリー



IoT(モノのインターネット)を活用して、名刺大のカードを持ち歩くだけで、行った場所を自動で記録する「非接触自動スタンプラリー」が、京都府福知山市内で実施されている。官民連携で取り組む国内初の試みといい、新型コロナウイルスが感染拡大する環境下での観光のあり方を探る。

実施期間は12月1日から来年1月31日までの2カ月間。不特定多数の人が手にするスタンプを触る必要がなく、アプリをダウンロードするなどの事前準備もいらず、気軽に参加できることが特徴。

起案は地方自治体のPRやマーケティングを手がけるクロスボーダー(東京都台東区、佐藤泰也代表取締役)。NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公・明智光秀が築いた城下町として、観光需要を高める福知山市などに呼びかけ、観光庁が掲げる「あたらしいツーリズム」の実証事業に採択された。

ラリー発着点になるJR福知山駅北口すぐの福知山観光案内所を訪れて、カードを受け取れば準備完了。福知山城をはじめとする名所、ご当地グルメが味わえる飲食店やスイーツ店、集客施設、宿泊施設など市内46カ所を自由に巡る。

各地点にある発信機に近づくと、カードにあるランプが青色に点灯して1~5ポイントが自動で加算される。10ポイントを集めてゴールすると、記念品の菓子がもらえる。

観光案内所から距離が遠いほど高得点に設定。城周辺のまちなか回遊にとどまらず、大江町の日本の鬼の交流博物館や三和町の三和荘、夜久野町のやくの高原市などにも発信機があり、周辺部への誘客にもつなげたいとする。

同社は「観光客はもちろん市民のみなさんにも楽しんでほしい」と呼びかけ、市も「市内全域の魅力発信につなげたい」と期待している。

毎日先着150人で、受付時間は午前9時から午後3時まで。

スタンプラリーに合わせて、LINEを使って謎解きをしながら、まち歩きができるゲームも準備している。

写真=駅の観光案内所で借りるカードを持って出発



参加賞のボールペンと明智茶屋の店主  
植村さん

福知山市内で実施された。中央のつまみを引けば、福知山ゆかりの非接触自動スタンプラリーの参加賞、戦国武将、明智光秀のボールペンが、好評

が出てくる仕掛け付き。「光秀の意外な一面を知ることができるし、アイディアが面白い」と喜ばれている。

スタンプラリーは、地方自治体のPRやマーケティングを手がけるクロスボーダー(東京都台東区、佐藤泰也代表取締役)が起案。福知山市などに呼びかけ、今年1月から来年1月31日まで実施している。

ラリーの発着点は、JR福知山駅北口すぐの福知山観光案内所。名刺大のカードを受け取り、持ち歩いて市内46カ所のポイントを訪れると、自動でポイントが加算され、10ポイントを集めてゴールすれば、記念品の菓子がもらえる。

土日は平均50人、平日は20人ほどがチャレンジしているといい、このラリーに参加すればもらえるのがボールペン。クロスボーダー

が、篠尾新町のカフェ&ケーキ明智茶屋(植村勇輝店主)の協力を得て作った。

明智茶屋では、以前からケーキや焼き菓子を入れる箱に、「明智光秀が好きになる12の理由」として、射撃の名手で文化人だったことなど、光秀のさまざまな面を取り上げたカードを添えている。

これに目をつけたクロスボーダーが、12の理由の文章を修正するなどして、ボールペンの仕掛けの巻物にするアイディアを思いつき、店主の植村さん(33)の承諾を得て作製。裏面には、桔梗紋のイラストと「光秀愛」の文字を入れた。

植村さんは「自分が考えた12の理由が、グッズになってうれし。意外な一面も紹介しているの、光秀と福知山への関心を高めてもらおうきっかけになれば」と話している。